

授与する学位の名称	博士(体育科学)〔Doctor of Philosophy in Health and Sport Sciences〕	
人材養成目的	体育・スポーツ・健康科学分野に関連する現代社会の課題解決への貢献をめざし、卓越した研究・教育活動を行うために必要とされる高度な能力及びその基盤となる豊かな学識や実践力を持ち、グローバルな視点にたってリーダーシップを発揮できる人材を養成する。	
養成する人材像	・体育・スポーツ・健康科学等の分野において高度専門的知識を持ち、教育研究機関において、国内外の教育・研究機関における教員や研究員 ・体育・スポーツ・健康科学等の分野においてリーダーシップを発揮し、行政機関やスポーツ競技団体において将来計画を立案・実行できる人材 ・最先端の研究技法を駆使して、グローバルなレベルで問題解決できる能力を持つ研究者 ・俯瞰的な視野と柔軟な思考力を有し、様々な領域の人材とチームを組んで課題を解決する能力を持つ研究コーディネーター	
修了後の進路	体育・スポーツ・健康科学研究におけるリーダーとして、国内外の国公私立大学等の教育研究機関の教員・研究員、企業および公的研究機関における研究員、行政機関やスポーツ競技団体の主要な役職員。	
ディプロマポリシー		
筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する博士後期課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、博士(体育科学)の学位を授与する。		
知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力:未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	研究方法論Ⅰ(必修科目)、健康スポーツ科学研究演習Ⅰ・Ⅱ(必修科目)、プロジェクトローテーション、課題解決研究Ⅰ・Ⅱ、研究計画作成、学位論文作成(学位取得の条件)、学会発表(3年間の標準履修年限で一度も学会発表を行わないことはなく、必修科目と同等)など
2. マネジメント能力:俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	研究方法論Ⅱ、健康スポーツ科学研究演習Ⅰ・Ⅱ(必修科目)、プロジェクトフォーラムⅠ・Ⅱ、体育専門学群「体育科学シンポジウム」企画・運営、国内・国際学会運営補助経験など
3. コミュニケーション能力:学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えたとともに、質問に的確に答えることができるか	研究セッション(必修科目)、国際ディベート合宿Ⅰ・Ⅱ、学会発表(3年間の標準履修年限で一度も学会発表を行わないことはなく、必修科目と同等)、セミナーでの質問
4. リーダーシップ力:リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	研究方法論Ⅱ、健康スポーツ科学研究演習Ⅰ・Ⅱ(必修科目)、プロジェクトフォーラムⅠ・Ⅱ、体育専門学群「体育科学シンポジウム」企画・運営、国内・国際学会運営補助経験など
5. 国際性:国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	健康スポーツ科学研究演習Ⅰ・Ⅱ(必修科目)、国際ディベート合宿Ⅰ・Ⅱ、国際フォーラムⅠ・Ⅱ、Global Communication Skills Training(大学院共通科目)、国際会議発表、国際セミナーでのディスカッション、英語論文など
6. 研究力:体育・スポーツ・健康科学分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力	① 最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定できるか ② 設定した研究課題を解決するために自立して研究計画を遂行できるか	研究方法論Ⅰ(必修科目)、研究セッション(必修科目)、学位論文作成(学位取得の条件)
7. 専門知識:体育・スポーツ・健康科学分野における先端かつ高度な専門知識	体育・スポーツ・健康科学分野における先端かつ高度な専門知識を身に付けたか	健康スポーツ科学研究演習Ⅱ(必修科目)、学位論文作成(学位取得の条件)

8. 実践力: 体育・スポーツ・健康科学分野の研究者または高度専門職業人として身につけた高度な専門知識を社会で活用する能力	① 体育・スポーツ・健康科学分野における先端のかつ高度な専門知識を伝達できるか ② 体育・スポーツ・健康科学分野における先端のかつ高度な専門知識を運用できるか。	課題解決研究Ⅰ、プロジェクトフォーラムⅠ、学会発表(3年間の標準履修年限で一度も学会発表を行わないことはなく、必修科目と同等)、TA活動
9. 倫理観: 体育・スポーツ・健康科学分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識	① 体育・スポーツ・健康科学分野に関する深い倫理的知識をもっているか。 ② 研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観を持っているか。	研究方法論Ⅰ(必修科目)、健康スポーツ科学研究演習Ⅰ(必修科目)、研究倫理(大学院共通科目)

学位論文に係る評価の基準

筑波大学大学院学則に規定された要件を充足した上で、主査1名、副査3名以上で構成する学位論文審査委員会により、学位論文が下記の評価項目について妥当と認められ、かつ、学位論文に関する口頭発表および質疑による最終試験で合格と判定されること。

(評価項目)

1. 関連分野の国内外の研究動向及び先行研究の把握に基づいて、体育科学分野における当該研究の意義や位置づけが明確に述べられていること。
2. 国際的な体育科学分野の発展に寄与する先進的かつ独創的な研究成果が、博士学位論文に相応しい量含まれていること。
3. 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が多角的に検証されていること。
4. 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な根拠に基づいていること。
5. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等が、体育科学分野の博士学位論文に相応しい形式にまとめられていること。

カリキュラム・ポリシー

体育科学学位プログラムは、体育学学位プログラムのスポーツ文化・経営政策、健康・スポーツ教育、ヘルスフィットネスおよびコーチング科学等の教育・研究指導を、より高度なレベルで実施する学位プログラムである。

そして、体育・スポーツ・健康科学分野で卓越した指導・実践力、かつグローバルな視点でリーダーシップを発揮できる人材を養成するため、以下の二つの履修モデルを設けて教育・研究指導を行う。

- ・標準履修モデル: 体育・スポーツ・健康科学分野等の分野において幅広い基礎知識(専門基礎科目)と高度な専門的知識(専門科目: 研究応用科目)を修得し、さらに様々な領域の人材とチームを組んで課題を解決する能力(専門科目: 研究実践科目)、グローバルな視点で課題を解決する能力(専門科目: 国際研究科目)を修得できるように教育・研究指導を行う。
- ・次世代健康スポーツ科学履修モデル: 体育・スポーツ・健康科学分野等の分野において幅広い基礎知識(専門基礎科目)と高度な専門的知識(専門科目: 研究応用科目)を修得し、さらに産業・地域・競技団体などの「実践フィールド」における人材とチームを組んで課題を解決する能力(専門科目: 研究実践科目)、グローバルな視点で課題を解決する能力(専門科目: 国際研究科目)を修得できるように教育・研究指導を行う。

教育課程の編成方針	下記に示す体育科学学位プログラムにおける科目を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、研究群共通科目、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目から3単位以上履修することを推奨する。 ・「研究方法論Ⅰ」「健康スポーツ科学研究演習Ⅰ」などにより、新たな知を創成する能力を身に付ける。 ・「研究方法論Ⅱ」「プロジェクトフォーラムⅠ・Ⅱ」などにより、俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力を身に付ける。 ・「研究セッション」「国際ディベート合宿Ⅰ」などにより、学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力を身に付ける。 ・「研究方法論Ⅱ」「プロジェクトフォーラム」「国内・国際学会運営補助経験」などにより、リーダーシップを発揮して目的を達成する能力を身に付ける。 ・「国際ディベート合宿Ⅰ・Ⅱ」「国際フォーラムⅠ・Ⅱ」「国際会議発表」「国際セミナーでのディスカッション」などにより、国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲を身に付ける。 ・「研究方法論Ⅰ」「研究セッション」「学位論文作成の指導」などにより、自立して研究計画を遂行できる能力を身に付ける。 ・「健康スポーツ科学研究演習Ⅱ」などにより、高度な専門知識を社会で活用する能力を身に付ける。 ・「研究方法論Ⅰ」「研究セッション」などにより、深い倫理的知識を身に付ける。
-----------	--

学修の方法・プロセス	・1年次において、「研究方法論Ⅰ」及び「研究セッション」を必修として、幅広い基礎的な研究力・実践力を修得させる。 ・1年次において、「健康スポーツ科学研究演習Ⅰ」(通年)を必修として、研究の応用面についても学修させる。 ・1年次において、研究報告会Ⅰにおいて研究計画書を発表させ、学位取得までの課題を再検討させる。また、指導体制を確定させる。 ・1年次において、次世代健康スポーツ科学履修モデルでは、実践フィールド(学校、競技、地域、企業)を設定し、社会的課題等を設定させる。 ・2年次において、「健康スポーツ科学研究演習Ⅱ」を必修とし、また「課題解決研究Ⅰ、Ⅱ」を通して、より高度な研究力・実践力を修得させる。 ・2年次において、国内・国際学会における研究発表を通して、学位論文に向けた研究活動に関して外部からの評価・指導を受けさせる。 ・2年次において、次世代健康スポーツ科学履修モデルでは実践報告書を作成させる。 ・3年次において、研究報告会Ⅱにおいて研究の進捗を発表させ、学位論文作成までの課題を再検討させる。 ・3年次において、学位プログラム内指導教員3名と、できる限り学位プログラム外指導教員1名(副査予定者)を加えた指導体制において予備審査会を実施させる。 ・3年次において、学位論文審査会において、学位論文の審査を行う。
学修成果の評価	・知の創成力:新たな知の創成といえる研究成果等があるか、また人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるかを評価する。 ・マネジメント能力:課題に対して長期的な計画を立てて実行することができるか、また専門分野以外でも俯瞰的な視野から解決する能力はあるかを評価する。 ・コミュニケーション能力:異分野の研究者や研究者以外の人に対して論理的に説明することができるか、また専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えることができるかを評価する。 ・リーダーシップ力:魅力的かつ説得力のある目標を設定し、また体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるかを評価する。 ・国際性:国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか、国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するかを評価する。 ・研究力:専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定できるか、設定した研究課題を解決するために研究計画を遂行できるかを評価する。 ・専門知識:体育・スポーツ・健康科学分野における先端的かつ高度な専門知識を身に付けたかを評価する ・実践力:先端的かつ高度な専門知識を伝達できるか、また先端的かつ高度な専門知識を運用できるかを評価する。 ・倫理観:体育・スポーツ・健康科学分野に関する深い倫理的知識をもっているか、研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観を持っているかを評価する。 ① 学際性:最先端学問領域間の壁:課題解決に必要な領域横断型個別カリキュラムの設定 ② 実際性:基礎研究と応用実践の壁:研究プロジェクトの推進を中核としたPBRによる教育 ③ 国際性:産学・地域・国際連携の壁:世界最先端の諸組織との連携を活用した研究教育体制
アドミッション・ポリシー	
求める人材	スポーツ活動の実践や運動指導の経験を踏まえ、体育・健康・スポーツに関わる諸現象に対して高い関心をもち、そこから派生する諸問題の解決に向けた研究の推進及び成果の公開、さらに教育者・研究者として必要な知識・技能の習得並びに協同して社会的課題に取り組むことに情熱を持つ人材を求める。
入学者選抜方針	・研究概要と研究計画書をもとに口述試験を行い、研究者としての基礎的な能力および標準履修年限内での学位取得が可能かを評価する。 ・外部英語試験(TOEFL, TOEIC)をもとに、国際情報発信能力を評価する。 入学後、次世代健康スポーツ科学履修モデルの履修を認める学生を別途選抜する。